NPO 法人千葉自然学校 ニュースレター

CNSニュースレター

～千葉の地から、千葉のチカラ～

2022 春
vol.30

物置小屋だった薄暗い土蔵の２階を整理すると…なんということでしょう。趣のある個展のギャラリーに！（南房総市　古民家ろくすけ）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

千葉自然学校は、持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいます。

も　く　じ

□不易流行 …2
□ろくすけ日和 …3
□千葉シニア自然大学 …3
□現場レポート …4～5
□受託・ネットワーク事業 …6
□千葉県立君津亀山青少年自然の家 …7
□南房総市大房岬自然の家
　千葉県立大房岬自然公園 …8～9
□ちば・体験活動ネットワーク
　団体紹介・会員校フィールド紹介 …10～11
□千葉自然学校スタッフ紹介 …12

不易流行

理事長　久保田　康雄

現在、新型コロナ・オミクロン株の感染拡大のため、千葉県にもまん延防止等重点措置が適応されたところです。しかし年末、年始は、まだ感染拡大が落ち着いている時期であり、ＮＰＯ法人千葉自然学校では、スキー教室やスノーアドベンチャー（雪遊び）などの事業を感染防止対策を行いながら実施したところです。子どもの嬉々とした様子など詳細の報告については、各担当者より後述いたしますのでご覧ください。

さて先日、当校の会員校でもあります「銚子海洋研究所」を訪ね活動に参加してまいりました。銚子海洋研究所は、２０年以上にわたり銚子沖でイルカやクジラウォッチングを行っている団体で、私が参加した活動は、月に１回実施している「ビーチクリーン」と「海洋漂流ゴミの回収」の活動でした。大人から子どもまで合わせて３０人以上が参加していました。ビーチにはちょうど海流の関係でゴミが集まる場所があり、そこには海や川から流れ着いたゴミがたくさんありました。

ゴミは、主にプラスチック類が多く、ペットボトルや洗剤の容器や発泡スチロール、またナイロン製のロープや網やブイなど、中には古タイヤなどもありました。３０分の作業で、４５リットルのビニール袋を５０袋以上回収しました。その後、銚子海洋研究所の船に乗船し、沖合に出発しました。通常は、網で漂流ゴミを船上からすくうとのことでしたが、今回は、風向きの関係で、漂流しているゴミを見つけることができませんでした。

この活動を始めたきっかけは、イルカやクジラがプラスチックを飲み込んでしまったり、ロープや針金に絡まってしまったりするのを見て衝撃を受け、海洋生物の安全を守るために、ビーチクリーン及び海洋漂流ゴミの回収プロジェクトを立ち上げたそうです。まさに、ＳＤＧｓの「海の豊かさを守ろう」という１４番目の目標にもマッチしている活動であります。

話は変わりますが、最近、青少年の体験活動に関する調査結果が文部科学省より発表されました。本調査は、２万人以上の子どもとその保護者を対象に１８年間追跡調査し、子どもの頃の体験とその後の意識等の関係を検証しました。子どもの頃の体験がその後の成長に及ぼす影響を明らかにした研究は数多くありますが、今回のような規模の追跡調査の研究は、文部科学省としては初めての取り組みとなります。その結果は「（１）小学生の頃に体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情や外向性、精神的な回復力が高くなる傾向が見られた。（２）小学生の頃に異年齢（年上・年下）の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も上記と同様の傾向が見られた。（３）子どもの成長には家庭環境が影響すると考えていることから、世帯の収入別に分析を行ったところ、小学生の頃に体験活動の機会に恵まれていると、家庭の環境（収入状況）に関わらず、高校生の時に自尊感情が高くなる傾向が見られた。」とのことでした。

要するに、小学生の頃の多様な体験や異年齢の人と遊ぶ体験がその後の成長に影響を及ぼし、それは家庭環境（収入状況）には左右されないということです。今回の研究により、これまで直感的に捉えられてきた「体験活動は、子どもの成長にとって大切な要素だ」という感覚を、確かな分析方法により裏付けることができたと考えます。すべての子どもが置かれている環境に左右されることなく、体験の機会を十分に与えられるような仕組づくりを進めていくことが重要だということです。

コロナ感染拡大収束後、当校では子どもが思う存分遊べるような環境を準備し、楽しく感動的な体験活動をたくさん提供していきたいと強く思いました。

不易流行…いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ねているものをも取り入れていくこと。
また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること。

ろくすけ日和『ろくすけ大豆』

千葉自然学校では、築200年の古民家を管理しています。南房総市平久里という地域にあり、周りは里山。まるで昔話のような場所です。この家には屋号という昔からの愛称があり、皆から親しみを込めて「ろくすけ」と呼ばれています。シニア自然大学やヤックス自然学校のキャンプリーダーの力を借りて少しずつ整備を進め、子ども・大人のキャンプなどで皆が過ごしやすい場所を目指しています。時々テレビにも出ています！

２月からのみそづくりを前に、ろくすけ産みそ用大豆２９kg が準備できました。この大豆は昨年、ろくすけの会が枝豆で収穫した後の豆を大豆に育て、乾燥、脱莢、そして丁寧に選別しました。選別は３分別、丸々と熟した大豆はみそ用に、未成熟な豆は煮豆ときな粉用に、割れたり虫食いは小鳥用にしました。この大豆を使って煮豆ときな粉を作ってみました。煮豆はふっくらとして、ご飯に炊きこむと甘くておいしい豆ごはんになりました。きな粉は予想以上に香ばしく、クリームチーズを包んだろくすけもちに振りかけると、上品な和菓子になりました。みそづくりの昼食にも使って、無駄にしないで最後まで使い切ろうと思っています。

手間暇かかった大豆ですが、ろくすけの庭で干した莢がときおりはぜる音を聞きながら莢を外し、背に小春日の陽を浴びながら選別する時間は、コロナ禍の中ではとてもぜいたくな時間でした。ろくすけのこんな時間を今年も皆さんと共有したいと思っています。

２月から３月にかけてみそづくりに入ります。青森産の大豆２１０kg の準備もできました。どうぞ、お仲間でお出かけください。

（文：遠藤陽子／サニー）

千葉シニア自然大学 ～千葉の自然誌・自然観察・自然調査の実践講座～

緊急事態宣言下の授業の開催は中止し、その後はコロナ感染予防対策を講じた上で始めましたが、宣言の変更のたびに幾度も講座日程を変更しての授業開催になりました。幸い無事に全授業を終えることができ、講師の先生方と受講生の方々のご協力には感謝の気持ちでいっぱいです。

最も日程変更の多かった廣瀬先生の自然観察講座の最終日は１２月１５日に大町公園自然観察園で開催されましたので、その模様をお伝えします。

１回、２回で学んだ自然観察の技術を、３回目の最終日は受講生自らが自然観察会を行うための下見、計画づくりを行い、自然観察会を実施する日でした。また、２回目の授業で３班の編成と班ごとのテーマを決める準備をしてもらいました。

１班　探してみよう「葉痕」※葉が落ちて、樹木に残る痕

まず葉痕がわからないとアウト。参考に配られた資料を見ればわるかと思いきや、配布資料で分かるのは枝の木肌から樹種まで…それすらも危うい。葉痕の特定は難しいようでした。

２班　大町自然観察園の維持管理について現地で考えてみよう

自然環境を守るというのはどういう意味かを現地の現況を見ながら問われた自然観察会でした。

なお、観察園の管理は動植物園が行い、自然環境の保全は自然博物館が行っています。

３班　葦の変な形の葉（副題：虫のねぐらを探せ）

虫の名前は、タテシマノメイガ、オオチャバナセセリ、カバキコマチグモの３種。活動の中心がねぐらで、外出して戻ってくるというのが興味深いです。

発表時間３０分という制限にもかかわらず、シニアならではの説明と資料編集の手際よさはさすがというしかありませんでした。

なお、自然観察園内にあるもみじ山は、年に一度もみじ鑑賞会のためにこの時期に限り開放しています。（２０２１年の鑑賞会は１１月２０日から１２月１２日まで）

（文：白戸英憲／写真：猪野宴哲氏）

10月~2月 主催事業現場レポート

こども 大人

千葉県南房総の山間にひっそりたたずむ里山

小さな里山の集会

10/30(土)~31(日)古民家ろくすけ・旧棚田
日帰り・テント泊/郷土料理のランチ　ワークショップ
土蔵ギャラリー等

日帰り２２名、宿泊２２名の計４４名に参加者に、小さな里山のイベントを体験してもらいました。

郷土料理ランチを堪能し、みんなでＤＩＹ、里山探検、草木染め、ダンボールくん製、焚き火、フェイスペイントなどのワークショップを楽しんだ２日間でした。

また、土蔵ギャラリーで特別展「白間津の大祭２０１９写真展」を開催しました。夜には土蔵の白壁に動画を映写し、焚火とコラボした幻想的な時間を過ごしてもらいました。

【参加者からの感想】

・郷土料理を使ったお弁当は、初めて食べる地元の食材があり、とても美味しかった。

・満天の星にびっくりしました。都会では、こんなに星が見られない。流星群の時期にまたぜひ訪れたい。南房総市なら寒すぎないのでゴロっと寝転んで星空観察を楽しみたい。

・日帰りの参加でしたが、宿泊のプログラムを体験したい。また次回ぜひ企画をやってほしい。

などなど。

古民家と土蔵、旧棚田が
よみがえった
二日間になりました。

（文：小松敬／ボクサー）

こども

大物をねらえ！

秋の海釣りキャンプ

11/6(土)~7(日) サンセットビーチインかわな
民宿泊/海釣り　たき火

釣りには絶好のシーズン。海が目の前の民宿に宿泊し、釣り三昧の２日間でした。

釣りキャンプはほとんどの子どもがリピーターで、自分たちで仕掛けを準備し餌を付け釣りが始まります。初めての子どもには慣れるまで付き添います。

今回は大漁！イシモチ、キス、イワシ、小サバ等が釣れ続き、夕食のおかずに困りませんでした。

天ぷら・唐揚げ美味しかったね。また釣りに行こう！

なんと大漁！
釣った魚は天ぷら・
唐揚げに。
いただきま～す！

（文：佐藤昭仁／アリ）

11/20（土）～21日（日）　鴨川市大山千枚田周辺
棚田のあかり参加　満月観察　ナイトハイク（大山千枚田～前原海岸）

こども

満月の夜を歩き通せ

オーバーナイトハイク

鴨川市の大山千枚田～魚見塚展望台～前原海岸～ＪＲ安房鴨川駅まで約２１km のスルーハイクに小５女子、中１男子の２名がチャレンジしました。棚田のあかりのＬＥＤライトが消える頃、大山千枚田を出発。目指すはゴールの魚見塚展望台。太平洋から登る朝日を見るため、満月の夜中を歩き通しました。子どもはただ黙々と前へ歩き…泣き言一つ言わず進む姿はたくましく、誇らしかったです。満月の明るさ、夜中の寒さ、朝焼けの美しさ、みんなで見たゴールの景色は、最高の思い出になりました。

残りどれくらいだろう？
まだまだ行けるか？
うん！良し行こう！

（文：佐藤昭仁／アリ）

こども

今年も福島県で雪遊び

スノーあそベンチャー

12/25（土）～28（火）　国立那須甲子青少年自然の家
施設泊/雪遊び　スノーシュー　スキー　地元猟師さんのお話

雪遊びコース２１名、スキーコース１２名の元気な子どもと白銀の世界へ。雪遊びコースは雪だるま作り、ソリ滑り、スノーシューなど雪国ならではの遊びを満喫。スキーコースはリフトに何度も乗って、気持ちよく滑ってきました。どちらのコースでもみんなで工夫し合い、切磋琢磨し、楽しむ姿が見られました。子どもも大人もたくさん笑い、最高の４日間でした。

固めるのが難しい新雪で、
みんなで頑張って作った
雪だるま☃
かわいいでしょ？

（文：花嶋桃子／ぽにょ）

大人

那古船形周辺の古道歩き

房総の古道を歩く

1/15(土) 館山市　那古船形駅周辺
ハイキング、古道、お寺、神社

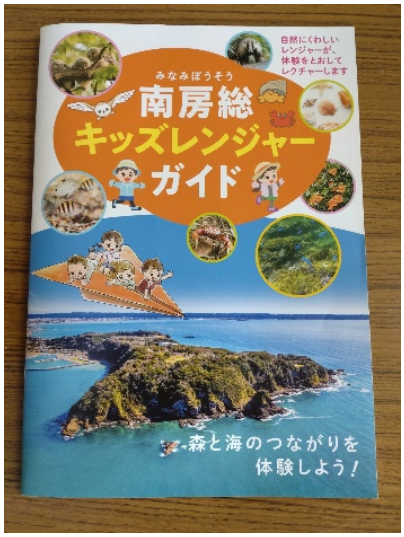
温かい日差しの中、館山の古道歩きを行いました。
講師の川崎勝丸先生の説明を聞きながら、普段ならあまり通らないような裏道を歩き、道中にある神社やお寺も巡りました。古道歩きを通して、寺社仏閣と道とのつながりや、その地域の風習などを学ぶことができました。
約１２キロのルートを昔はどのように使われていたのか、時の流れを感じながらの楽しい古道歩きになりました。

お昼ご飯は諏訪神社の
東屋にて。
富士山を見ながらの
贅沢ランチ♪

（文：清水旭／くま）

≪受託・ネットワーク事業≫

大房岬ガイドブック「南房総キッズレンジャーガイド」



環境省令和２年度国立公園・温泉地等での滞在型ツアー・ワーケーション推進事業の一環として、日本環境教育フォーラムの方々が中心となり、大房岬のガイドブック「南房総キッズレンジャーガイド」を作成していただきました。

大房岬の概要からはじまり、大房岬の生きもの達、大房岬の遊び方、森と海のつながり、循環する水の役割、そして大房岬で働く我々レンジャーの事などを網羅した、大房岬の魅力がギュッと詰まった一冊になっています。かわいらしく、それでいて生きものの特徴をとらえたイラストも必見です。ガイドブック作成にあたりご尽力いただいた皆様、本当にありがとうございました。こちらのガイドブックは自然の家・ビジターセンターで販売するとともに、体験指導の資料として今後活用していく予定です。

（文：山口亮介/こめ）

我孫子市小学校　ＳＤＧｓプログラム

大房岬自然の家の家の近隣ホテルに宿泊した我孫子市の小学校５年生１３８名の児童の受け入れを行いました。実施したプログラムは、森から海までそろっている大房岬の自然環境を生かした、環境学習プログラムです。

①「世界とつながる砂浜ビーチコーミング」と②「未来のための森づくりプログラム」というプログラムを２班に分けて実施しました。

①では、砂浜に流れ着く海洋プラスチックゴミを実際に目で確認し、自分たちの生活とのつながりについて考えます。②では健全な森の状態にしていくために、土壌環境の改善作業を行い、水と空気の循環の重要性を体験してもらいました。

そして、プログラム終了時には海と森のつながりについても考えてもらいました。学校に戻っても、それぞれの班で体験したことがつながると良いなと思っています。ＳＤＧｓという言葉が体験的に理解できるようなプログラムをこれからも展開していきたいと思っています。

（文：白井健/ネギ）

平群ツーリズム協議会「令和３年度協働のまちづくりセミナー」

２月の初め、千葉県がオンライン開催した「令和３年度協働のまちづくりセミナー」で平群ツーリズム協議会が事例発表をしました。同協議会は、「子どもの声が響く地域」を目指して、都市と連携してグリーンツーリズムを実施し、平群地域コミュニティーを活性化させようと２０１３年に設立され活動しています。

平久里下・平久里中・山田地区、岩井案内人の会、富山地域づくり協議会「ふらっと」、南房総市及びろくすけの会とＮＰＯ法人千葉自然学校で構成され、千葉自然学校が事務局をしています。「ろくすけ」を活動拠点として「平群を歩く」や「米作り体験」などを実施して平群ファンを増やし、その協力も得て耕作放棄地の活用や里山環境の保全などを行っています。協議会を支える地域のキーマンは、旧平群小学校の同級生及び仲間です。お陰で他団体や行政との連携も円滑に行き地域内の調整もうまくいっています。

（文：遠藤陽子／サニー）

～ きみかめ便り ～

千葉県より指定管理を受け、「君津亀山青少年自然の家」の管理・運営を行っています。清澄山系から連なる自然度の高い森の中に建つ、最大宿泊者数300人規模の施設となっています。プラネタリウムの投影や芝の斜面を生かした芝すべり、カレーや石窯ピザなどの野外調理、思い出のクラフト作成など47種類ものアクティビティをご用意しております♪

千葉県立君津亀山青少年自然の家

千葉県立君津亀山青少年自然の家　　所長 庄司達哉

「新アクティビティー」

来年度に向けての当施設新アクティビティの一部を紹介します。

NEW 野外炊飯メニュー

●「カオマンガイづくり～タイ風チキンライス～」…飯ごうにお米、鶏肉、調味料をいれて炊けばタイ料理の完成！

●「お手軽燻製づくり」…野外炊飯をしながら、同時にチーズやウィンナーなどの燻製にもチャレンジ！

NEW クラフト

●「森の名札づくり」…台風などで倒された木の枝を使って、自分だけのオリジナル名札を作ります。

長期化するコロナ禍において、依然としてオミクロン株が猛威をふるっています。密をさける、黙食、マスク着用、消毒などの感染症対策が当たり前の日常になっていますが、人との交流や旅行や体験活動などが妨げられない社会が戻ってくることを願っております。新しい活動を準備して、皆様のご利用をお待ちしております。

きみかめ掲示板

【イベント報告】 1月16日(日) 「6歳になったら机を作ろう！③」

このイベントでは、学習机を自分で作ることを通して、モノを大切にする心を育み、身近な森で育った木材を使用することで「森・山・海」のつながりを感じてもらうことを目的とした活動です。

午前中は木こり体験！きみかめの森の木を実際に1本切ってみました。ノコギリで少しずつ切り進めていき、「ギギギー、ドーン」と木が倒れたときに大きな歓声が上がりました。

午後からはいよいよ机作り。机作りのキットは君津産の木材を使い、秋元木工さんが作ってくださった本格的なものです。最後に出来上がった机の裏に手形や日付、机作りの感想などを書いて、世界に一つだけの机が完成しました。　庄司

【自然情報】 春のはじまり

まだ寒い日が続いていますが、少しずつ春の陽気が感じられるようになりました。きみかめの森でも少しずつ緑が増え始めています。春には桜が満開になり、とても綺麗な景観が楽しめます。桜は根を広く張る特徴から、昔から土砂災害の予防として河川付近には多くの桜が植えられてきました。このように自然災害には自然の力を利用して対策する先人たちの知恵があったからこそ、今では私たちが自然を楽しめる場所として残っているのかもしれません。　武田

～ たいぶさ便り ～

南房総市、千葉県よりそれぞれ指定管理を受け、「大房岬自然の家・食堂」「大房岬自然公園」の管理・運営を行っています。

海と森の両方を楽しめる豊かな自然を活かしたプログラム・イベントが人気で、地元の方や千葉県内の方はもちろん、県外からも多くの方々が訪れます。

南房総市大房岬自然の家　所長 神保清司

突然ですが、炭焼きを始めることにしました。病気にかかったマテバシイを伐採して切って、割ってこれを炭焼き窯に入れて2日焼きます。焼きかたを習い、いずれは自然の家の敷地内に炭焼き窯を作ります。森や海が吸収しきれない二酸化炭素を炭を作ることで固定化することが出来ますし、日本ならではの循環型の森づくりを実践的に学ぶことが出来る場所になります。現在「緑の募金」「炭焼き体験を通した里山の資源循環を学ぶ場づくり」でご支援いただきクラウドファンディングも行っていますので応援をお願いいたします。

千葉県立大房岬自然公園　公園長 山口亮介

冬の間の公園の業務の一つに、木の伐採と薪割りがあります。枯れ木や園路に張り出した枝など、安全上問題のある木を伐採し、伐採した木は薪割りをしてキャンプ場で販売する薪としています。伐採した木を細かく割っていくと、節があったり、虫が食っていたり、木の繊維がねじれていたりと、生えている木を傍から見ているだけではわからない“気づき”があります。本当の意味で木の内側まで、隅々まで知ることができます。こうして得た知識は体験指導のいい“ネタ”になります。

我々の作業と体験指導は密接な関りがあるのです。

株式会社 体験と健康　料理長 松田光央
（南房総市大房岬自然の家食堂、千葉県立君津亀山青少年自然の家食堂　運営）

昨年と一昨年は中止になっていましたさくらフェスタが、規模縮小して2年ぶりに大房岬で開催する予定となりました。例年たいぶさ食堂として山菜そばやスペアリブなどを提供していましたが、今回はコロナ過の影響もあり、弁当等での販売を予定しています。

できるだけ安くて温かいものを大房岬自然公園内で提供したいと思いますので、お見かけの際は、ぜひ手に取ってください。

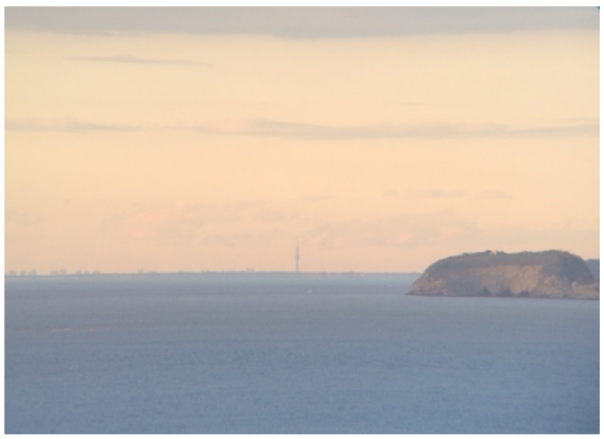
※お弁当の写真はイメージです。

taibusagram

大房岬の
とっておきの瞬間
をご紹介します！

Taibusa-misaki

海の向こうを一望！



いいね！634件

大房岬の標高は高いところで海から70～80mほどあります。そして、東京湾の入口に位置しているここからは色々なものを見ることができます。

よく晴れた日に展望台や展望塔に行き、南西を向けば伊豆大島の島影が浮かび、西を見れば東京湾を挟んで対岸の三浦半島、そしてその先に富士山が見えます。北側に目を向けると東京湾が奥に伸びていき、様々な船が行き来するそのさらに奥、つまようじの先ほどの大きさで東京スカイツリーが見えるときもあります。

冬は空気が澄んでいて夜にはたくさんの星が見えます。星を見に行く際に、少し早めに行ってみると夕焼けの景色も楽しめますよ♪

#景色　#夕焼け　#東京スカイツリー

伏谷

たいぶさ岬掲示板

岬で凧あげ

イベント報告

1月9日に「岬で凧あげ」を行いました。ただ凧をあげるだけではなく、自分で作った凧をあげました。この日はちょうど風も出ていて何もしなくてもどんどん凧が空高くへ！「トンビに襲われちゃう！」という声も聞こえてきましたが、無事取られることもなく楽しく凧あげをすることができました。

清水（旭）

ツルかごを作ろう

イベント報告

マザーズタッチのサハラ文子さんを講師にお迎えし、「葛（クズ）」を使ったツルかごづくりを行いました。作り方はシンプルで、一度法則を覚えてしまえばあとは同じ作業の繰り返しです。1個では足らず2個作ってしまう方も。ちょっとしたコツを覚えることで、暮らしが豊かになるのだと思います。是非普段の生活の中でも手を動かし楽しんでみてください。

白井

ジョウビタキ

生きもの紹介

冬の園内を歩いていると、「カッカッカッ」と鳴きながらお辞儀をする「ジョウビタキ」によく出会うことができます。ジョウビタキの「ビタキ」は「火焚」の意味で、鳴き声が火打石を叩く音に聞こえることからきています。園内で石を叩くような音が聞こえたら、近くで小さな鳥がお辞儀をしているかもしれません。

※写真はメスのジョウビタキです。

清水（旭）

≪ちば・体験活動ネットワーク≫ 千葉を元気にする会員校をご紹介！

千葉自然学校は、**ネットワーク型自然学校**として
『自然体験活動を通して千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指す』という趣旨に賛同頂いた県内の体験活動団体を中心とした皆様が、**『千葉自然学校ネットワーク会員校』**としてネットワークを形成し、環境保全や地域振興を図ることを目的として設立されました。
県内外からの教育旅行や、拠点である青少年教育施設での体験受入、その他様々な事業連携の取組を行っております。

一般財団法人千葉県観光公社 企画営業課
池田　篤史さん

宿泊　自然体験　自然観察

国民宿舎サンライズ九十九里にて

一般財団法人千葉県観光公社は県内に「国民宿舎サンライズ九十九里」「海の駅九十九里」「内浦山県民の森」「館山野鳥の森」の４か所を管理・運営されている会社です。各施設の取り組みや、春からのおすすめ情報をお伺いしました。

【内浦山県民の森 森の宿せせらぎ】
クラフト体験も楽しめます。

「一般財団法人千葉県観光公社」では、海と山、両方の豊かな自然に囲まれる千葉県、とくに九十九里、南房総地域において県内４ヵ所の施設それぞれの特色を活かし、見て、触れて味わっていただきながら千葉県内の観光および物産の振興に努めております。その中でも自然教育と地域振興の観点から自然体験活動も多岐にわたって実施しております。今回は各施設で行っている取り組みをいくつかご紹介いたします。

サンライズ九十九里では「日本サーフィン連盟」による子ども達向けのサーフィン教室を当館のプールで開催をしたり、九十九里地域のまちおこしに参加し、地元のお母さん達の指導の下、名産のイワシの背開き体験教室なども行っております。

海の駅九十九里では２階フードコートにて九十九里の郷土料理が味わうことができるほか、１ 階にあるイワシ資料館では約 3,000 匹のイワシが泳ぐ迫力のある水槽展示とイワシ漁の文化と歴史を学ぶことができます。他にもハマグリのつかみ取りや地元料理の体験教室、季節毎のクラフト体験なども行っております。

内浦山県民の森では森の宿せせらぎのほかログキャビン、オートキャンプ場、また体育館やグラウンドなどを備えており、自然に囲まれた中でハイキングやキャンプなどを通じ、心癒される時をお過ごしいただけます。

館山野鳥の森では年間を通して様々な野鳥に出会うことができます。また、園内のふれあい野鳥館では森の中の野鳥や植物を自然に近い状態で観られるジオラマや、野鳥情報コーナーがございます。ハイキングやバードウォッチなど、自然と触れ合える施設となっております。

春からは新鮮な旬の幸を愉しむことの出来るお食事プラン（サンライズ九十九里、森の宿せせらぎ）や地ハマグリを使ったオリジナルカレー（海の駅九十九里）など、各施設で美味しいお料理のご用意をしています。そのほか、早春の森ハイキング（内浦山県民の森）、燻製づくりや流木アート（館山野鳥の森）など、皆様で楽しめるイベントをご用意しています。各種体験やイベント情報はぜひ各施設の HP や SNS をチェックしてみてください。

取材：山崎大地（だいすけ）

【海の駅九十九里】
地元食材の料理や千葉名産のお土産を楽しめます♪

千葉県観光公社 HP はこちら⇒
☆各施設 HP へアクセスできます。
☆施設ごとの SNS で最新情報配信

オレンジ村オートキャンプ場

野宮　勉さん

キャンプ　自然体験　海辺の遊び

オレンジ村は、千葉県（房総半島）の南端千倉にあります。オーナーはお百姓さん。みかん園を経営しているので、秋にはみかん狩りが楽しめます。海までは５分！海水浴、サーフィン、釣りができます。５月の下旬より７月上旬までホタルの鑑賞ができます。裏山は自然林、バードウォッチングやきのこ採りもできます。

「みかん農園、みかん狩り、キャンプ場の複合経営」

昭和 31 年からみかん農園（野宮農園）を始めました。当時はみかんなどの農産物の値段も高かったのですが、徐々に値段が下がっていき、30 年前から始めたのがみかん狩り体験（千倉オレンジセンター）です。更に山の斜面を活用して、27 年前からキャンプ場を整備し始めました（オレンジ村オートキャンプ場）。現在はバンガロー8 棟、テントサイト 130 張程の施設になっています。事業経営にはたくさんの課題もありましたが、一つ一つの事業に真剣に向き合い、敷地も整備し、少しずつ事業を大きくしていきました。

「オレンジ村の魅力について」

みかん農場にできなかった斜面を平らにしてテントサイトを作っています。景色のよいところ、落ち着いた森の中、風の影響を受けにくいところ、人が集中しない静かなところなど、あらゆるニーズにこたえられるようバリエーション豊富で、また来たくなるようなテントサイトが魅力の一つです。

収穫体験はみかん以外にもハッサク・甘夏・レモンといった柑橘類の作物の他に野菜も行っています。コロナ禍では、学生の修学旅行などの受け入れも多くなりました。周辺の観光地の元気がなくなっているので、人の流れを作っていくことが求められていると感じます。

「今後の展望」

近年のキャンプブームには目を見張ります。キャンプ場を開業したときに近隣には 3 件ほどしかなかったキャンプ場も今や 17 件になっていると聞いています。この先は、キャンプブームもピークを過ぎ、他といかに差別化できるかが重要になると思っています。体験がサービスになってしまっていると感じています。不便を楽しむ、自然に五感を傾ける、キャンプ本来の楽しさが味わえるキャンプ場を目指していきたいです。また 2019 年の台風の影響で森も弱ってきています。日々の手入れをすることで健全な森を維持できると思っています。今まで培ってきた技術や知識を、若い世代にどう引き継ぐかもこれからやっていかなければいけないことだと思っています。

取材：白井健（ネギ）

【北総エリア】

・ワイズスノー＆アウトドアスクール ・NPO 法人佐倉みどりネット ・一般社団法人千葉県環境財団 ・千葉伝統郷土料理研究会 ・さんむアクションミュージアム
・一般社団法人千葉県観光公社 ・ヤックス自然学校 ・林造園土木株式会社 ・株式会社 HMC 東京旅行事業部 ・有限会社銚子海洋研究所 ・ピーちゃんクラブ
・ぬく森くらぶ ・食と農の体験工房「よもぎ館」 ・国民宿舎サンライズ九十九里 ・「わたしの田舎」谷当工房 ・スコープジャパン株式会社
・ちば千葉国際コンベンションビューロー ・東京クラシッククラブ

【上総エリア】

・Live Stock ・環南みんなの楽校 ・上総自然楽校 ・千葉県立内浦山県民の森 ・NPO 法人大山千枚田保存会
・NPO 法人市津・ちはら台自然学校 ・特定非営利活動法人ちば里山センター ・NPO 法人里山会 ・株式会社かずさアカデミーパーク

【南房総エリア】

・一般社団法人森のようちえんはっぴー ・NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団 ・岩井民宿組合
・白浜オーシャンリゾート ・株式会社ちば南房総（道の駅とみうら 枇杷倶楽部、道の駅三芳村 鄙の里、道の駅おおつの里 花倶楽部、道の駅ローズマリー公園、道の駅富楽里とみやま）・千葉県立館山野鳥の森
・千倉町民宿組合 ・千倉オレンジセンター

一緒に千葉を元気にしませんか？
会員校募集中！
【お問い合わせ先は裏面をご覧ください】

千葉自然学校スタッフ紹介

清水 美寿穂（りん） 南房総市大房岬自然の家

埼玉県川口市出身。子どもの頃はドルフィントレーナーを目指しており、高校卒業後は専門学校に通っていました。そこで得た知識や技術、出会った人、動物たちのおかげで、もっと広い視野で自然環境や動物たちについて伝える仕事がしたいと思うようになりました。

大房岬の海は輝くコバルトブルー。

現在私が勤めている大房岬の森と海では、たくさんの発見・冒険・体験をすることができます。皆さんに、今ある身近な自然の尊さに気付いてもらえたら嬉しいです。

【資格】
PADI　アドヴァンスド・オープン・ウォーター・ダイバー
PADI　ドルフィン・スキン・ダイバー
NEAL リーダー（NPO 法人自然体験活動推進協議会）
プロジェクト・ワイルド　エデュケーター
プロジェクト・ウェット　エデュケーター
グローイングアップ・ワイルド　エデュケーター

【得意分野】
スキンダイビング

【好きなこと】
歌うこと/水族館めぐり

千葉自然学校のミッション

体験活動を通じ
・だれもが人生を豊かに生き、支え合う力を育む
・地域の資源を保全・活用し、次代に引き継ぐ
・ネットワークを充実し、地域の活性化をめざす

千葉県内における自然体験活動団体をつなぐネットワーク型の自然学校として、平成15年より活動を行っています。自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を目指しています。

また、ネットワーク会員との連携を強化し、県内全域で幅広い世代を対象とした自然体験活動を実施しています。

ご寄付のお願い～古民家ろくすけの修復に向けて～

そろそろ築 200 年になろうとしている古民家「ろくすけ」。これまで多くの子どもやシニア世代の自然体験・地域交流の場として使用されてきましたが、母屋の屋根の損傷が著しくなってきました。その他、外壁なども劣化が目立っています。今までも皆さまからの協力で修復を続けてまいりましたが、再度ご協力のお願いになります。皆さまからのご支援をお待ちしています。（一口 3,000 円）

▼振込先（郵便局/払込取扱票を使用）
振替口座　00170-5-259431
加入者名　特定非営利活動法人 千葉自然学校
※払込取扱票に以下のご記入をお願いいたします。
【住所氏名欄】ご住所、お名前、電話番号
【通信欄】「寄付」、領収書のご希望有無

▼振込先（銀行）
千葉銀行　千葉駅前支店　普通　3740275
特定非営利活動法人　千葉自然学校　理事長　久保田　康雄
※お手数ですが、ご住所・お名前・電話番号・領収書のご希望有無を千葉事務所（下記）へお知らせください。

発行：**NPO法人 千葉自然学校**

■千葉事務所　〒260-0015　千葉市中央区富士見 2-3-1 塚本大千葉ビル 7 階
電話：043-227-7103／FAX：043-202-7237
ホームページ：http://www.chiba-ns.net　メールアドレス：info@chiba-ns.net